

土木構造物荷重指針連合小委員会 第12回 議事録(案)

○日 時：2005年3月7日(月) 10:30~12:30

○場 所：中央大学理工学部2号館4F 2437号室(土木会議室)

○出席者：古田委員長、本城副委員長、佐藤幹事長、秋山幹事、香月幹事、勝地幹事、川谷委員、北原幹事、澤田幹事、鈴木幹事、三島幹事、戸田幹事

○議事： 1) 前回議事録確認

2) 発題と討議

- ・第 編 一般論 修正案5 についての討議
- ・第 編 各種作用 についての討議

○配布資料： 12-1) 第11回 議事録(案)

12-2) 第 編 一般論 修正案5

12-3) 各種作用の整理(H16/10/7 配布資料)

12-4) 地震作用 原稿案

12-5) 風作用 原稿案

12-6) 衝撃作用を受ける土木構造物の設計用衝撃荷重の設定方法の指針(案)

12-6) 道路橋の活荷重(H16/10/7 配布資料)

○主な討議 (発言者、敬称略)

1. 前回議事録の確認

- ・ 佐藤幹事長により前回議事録の確認がなされた。

2. 第 編 一般論 修正案5 についての討議

- ・ 香月幹事より資料12-2の説明がなされた。資料12-2は、修正案4(H16/5/21)に主に用語の定義を追加したものである。
- ・ 「構造モデル」が7.1 一般用語に挙げられているが、再考した方がよいのでは。(鈴木)
- ・ 7.4節のタイトルは、「信頼性評価に関する基礎的な用語」等に変更する。(澤田)
- ・ 文章中の「荷重」は、「作用」に修正する。(澤田)
- ・ 誤解を生じないように「作用因子の組み合わせ」という表現は使用しない。(「作用効果の組み合わせ」とする。)
- ・ ISOに従って、「要求性能」は「performance objective」、「目的」は「purpose」に修正する。(澤田)
- ・ 内容についての修正は、当面は香月幹事に直接メールで連絡 修正意見を反映させた最新版はホームページに随時掲載する、という形式で行う。

3. 第 編 各種作用 についての討議

地震作用について

- ・ 澤田幹事より資料 12-3 について説明がなされた。資料 12-3 で作用因子(= 参照地震動) まで記述できており、この後、モデルと作用について記述を追加する予定である。
- ・ 本資料は、地震工学委員会の新ガイドラインの原稿案で販売が予定されているので、委員会間の調整が必要になる。(澤田)
- ・ 「 ” 参照 ” 地震動」という用語が適切かどうかについては議論がある。(澤田)

風作用について

- ・ 勝地幹事より資料 12-4 について説明がなされた。資料 12-4 は、前回までの資料の挿入図の差し替え、事例の追加、Appendix-B,C の追加 をしたものである。
- ・ 今後、ハコ書き(原理、原則のみを記述) を追加し、フォーマットの調整を行う。(勝地)

衝撃作用について

- ・ 香月幹事より資料 12-5 について説明がなされた。資料 12-5 は、衝撃委員会の「荷重と限界状態」WG にて作成したものである。
- ・ 本資料の基本的な考え方にそって、ロックシェットの 2 段階設計における荷重設定や、ミサイル衝突荷重(河西委員に依頼)、爆発荷重の記述等を追加することを考えている。(香月)
- ・ 衝撃荷重を受ける場合の限界状態についても、使用、修復、終局の枠組みで記述ができないか。(本城、鈴木)
- ・ 同じ現象であっても、想定する限界状態(設計において支配的か否か) によって変動作用もしくは偶発荷重となる。(佐藤)
- ・ 衝撃荷重が、変動作用として扱われる場合、または偶発荷重として扱われる場合にどういふものがあるか、といった記述の仕方のほうがよい。(本城)

活荷重について

- ・ 前回委員会でも話題となったが、道路協会・橋梁委員会において、荷重のバラツキ等も含めて活荷重に関しての議論が行われる。本荷重委員会からも横山委員、川谷委員らを通じて何らかのはたらきかけを行う。

今後の予定

- ・ 第 編 一般論の付録についての議論を進める。
- ・ 各論の原稿フォーマットは、地震作用原稿案（ハコ書き + 解説）を基本とする。

- ・ 次回開催予定

第 13 回本委員会 5月20日（金）13：00～ 鹿島建設 KIビル

以上